

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成26年度 第3回 所沢市環境審議会
開 催 日 時	平成26年10月10日(金) 14:00~16:00
開 催 場 所	市庁舎 低層棟7階 研修室
出席者の氏名	岡田久典、毛利吉成、山野均、針谷さゆり、加藤武祥、内田勉、足立圭子、中義直、平岩秀隆、菊一敦子、岩崎登、戸塚博允、島村三郎、坂根裕子、
欠席者の氏名	臼井雅子、喜多川通代
説明者の職・氏名	
議 題	1 開 会 2 議 事 (1) 第2期所沢市環境基本計画 改訂版の素々案(骨子)について (2) 所沢市地球温暖化対策実行計画 改訂版の素々案について (3) その他 3 閉 会
会 議 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料3-1 環境基本計画 新旧対照表【施策体系】</li> <li>・ 資料3-2 環境基本計画改訂素々案【環境目標・大柱】</li> <li>・ 資料3-3 環境基本計画改訂素々案【中柱~】</li> <li>・ 資料3-4 所沢市地球温暖化対策実行計画改訂素々案</li> <li>・ 資料3-5 委員からいただいた意見とその対応</li> </ul>
担 当 部 課 名	<p>環境クリーン部 次 長 越阪部 孝夫  環境対策課 参 事 大澤 稔  みどり自然課 参 事 関谷 佳和  生活環境課 課 長 内野 敏子  資源循環推進課 課 長 大野 義彦  環境総務課 課 長 大館 真哉  主 幹 並木 和人  主 査 肥沼 克年  主 事 中林 謙太</p> <p>環境クリーン部環境総務課 電話 04 - 2998 - 9133</p>

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	開会・あいさつ
会長	あいさつ
事務局	出席者の確認、審議会規定より過半数の出席により会議の成立を確認。傍聴者はなし。資料の確認。
事務局	<p>(1)第2期所沢市環境基本計画 改訂版の素々案(骨子)について 改訂案の新旧比較 ・資料3-1、3-5に基づき説明。</p> <p>質疑応答</p>
委員	水素ステーションは、今後、具体的にどのように参考にするのか？
並木主幹	水素を利用したエコカーは、約700万円と高額であり一般への普及はなかなか難しい。国・県の動向を踏まえ、調査研究していく。
委員	車よりステーションのほうが大変。早めに検討いただきたい。
委員	「1-1-2 エネルギーの自立分散化」という項目がある。これは従来の「再生可能エネルギー」のことだと思うが、市民にとっては、「エネルギーの自立分散化」という言葉より、再生可能エネルギーを積極的に利用するという方が分かりやすいと思う。また、マチごとエコタウンとの整合はマチごとエコタウン構想のどこを見ればわかるのか？
並木主幹	p.12にある基本方針の中にエネルギーに関する方針として再生可能エネルギーを導入することが謳われており、この中で「自立分散化」ということを謳っている。これは福島第一原発の事故を受け、計画停電などが起こり、一極集中による電力供給が問題となった。様々な再生可能エネルギーを配置することで対策になることから自立分散化を図る必要があるということで盛り込んだ。
委員	私としてはなじみがない。エネルギーの自立というのは国から出

	た言葉であるのか？
並木主幹	国もそのように表現している。
委員	私も環境の仕事をする前はそう思った。現在、国では「自立」や「分散」をキーワードにしている。確かに、地球温暖化というような言葉が最初に出たときも、一般市民の方には分かりにくい言葉であったかもしれないが、徐々に言葉が市民権を得た。どういう言葉であるかは計画の中でよく説明を書きしておくとして表現はこれでいいと思う。
事務局	(2)環境基本計画改訂素案【環境目標・大柱】について 資料3-2に基づき説明。
委員	出前講座はこちらからの要望に合わせることができるのか。
並木主幹	要望があればそれに合わせて行う。ただしメニューがあるのでその中で選択してもらって、その要望に合わせるという形です。講師は市の職員が行います。
委員	委員の質問について、その意見には大賛成。「市域」という言葉が大変多く出てくる。「市域」という言葉があるのかというのを感じるが、この計画は誰が読むかといえば市民が読むもの。市民が読んで広くいきわたるものだと思う。他の計画の文言と統一する関係で修正できないとの説明だったが、その時々によってふさわしい文言に直していくという姿勢が必要だと思う。市の職員や学者が使っている言葉でなく、市民が普通に読める平易な表現にしておくほうが理解できる人が増えていくのでは。文章全体が分かりにくい。簡潔に、箇条書きなどを多用して、理解しやすいものにしてほしい。
委員	「市域における」を「市の」という言い方にするという提案があったが、「市の」とすると「市が所有している」という捉え方になる。「市域の」であれば「市内全体の」という意味になるので後々混乱がないと思う。
会長	こういった表現の問題は、事務局で皆さんの意見を伺いながら、まとめていただきたい。

大館課長	<p>ご意見のとおり、平易な表現で分かりやすくというのはもっともな話。また委員のご指摘どおり語弊のない形で直さなくてはならない。指摘されているところは再検討するが、全てがそのように置き換わるかは約束できない。ただし、直すことはやぶさかではないので今後も指摘があれば検討していく。</p>
会長	<p>今の方法で進めてもらいたい。高校一年生がわかるものをというのが我々の世界ではいわれている。広く理解いただける表現を検討いただきたい。</p>
事務局	<p>資料3 - 3 環境基本計画 改訂素々案【中柱～】 資料3 - 3に基づき説明（大柱1から3まで）</p>
会長	<p>事務局の説明について意見があればお願いしたい。</p>
委員	<p>水環境の保全回復について提案した。環境基本計画の中にミヤコタナゴやホタルが生息できる環境とあるが、そういった記述があまりみられない。所沢は、みどりと水の町だと思っている。水辺のゴミをひろうだけでなく生き物がいる、住めるということを目指値にしていいただき、それに向かって企業や学校が動けば良い。 分かりやすくするために、具体的な生き物の例示をお願いしたい。</p>
並木主幹	<p>野生生物の生息数はデータがないから指標とすることが難しい。ミヤコタナゴは種の保存の観点で増殖をしているのでそれを目標値としている。 生き物が住める環境づくりという観点では資料3 - 3の p. 25 水辺のサポーターという指標としている。この団体がホタルなど生き物が住めるようにすることを目指す団体であり、その数が増えれば実現につながるのではと考えている。</p>
委員	<p>生物多様性がキーワードになっていると思う。現況について生息数のデータがないということだが、実態を把握して、それをどうするかということについてどのような方針を持っているのか。</p>
関谷参事	<p>生物多様性については保全するために何が大事かということを考えて、まずはみどりの保全をして生育できる環境をいかに保全</p>

	<p>するかが大事。現在は指定緑地の拡大を目指し事業を行っている。</p> <p>個別の緑地について、どういった植物が生息しているのかを調査しながら、拡大を進めているところです。</p>
委員	<p>希望としては様々な野生生物がいるわけで、その現況把握を進めるといった指標があってもいいのではないかと思う。</p>
委員	<p>環境学習について6 - 2 - 1 の「身近な生き物調査」などの市民参加型事業ということで調査を行うにあたり、色々当局者が実態を調査すべき。</p> <p>もう一点は2 - 2 人材育成とあるが、環境問題は人だと思う。まず環境問題についての関心を持って、解決策を提案する人をしっかり育成するという方向性があってもいいのではないか。そういうアドバイザーを何人育成したといった指標があってもいいのでは。</p>
並木主幹	<p>委員の発言に付け加えますと、3 - 3 の5 8 番に、「生物多様性保全のための緑地面積」ということで一部指標になっている。その面積の中で生息調査をしていく。</p> <p>みどりの保全についてはパートナー制度が実施されているところで、これらの調査にも、この方々にご参加いただきたいと思う。</p>
並木主幹	<p>もうひとつ補足すると、人材育成が大切という意見があったが、現行でリーダーの把握はしておらず、指標化は難しい。しかし環境学習の開催数や子どもエコクラブという主体的にエコを学ぶ取り組みについて指標化しており、人材育成をしているところです。</p>
委員	<p>田んぼやホタルの再生に10年かかった。保存会には30名程度が所属。埼玉県森林サポータークラブと共同して活動している。小学5年生の年間行事で田植えや山のどんぐりの植林。どれも10年かかった。皆さんの力を借りないと存続できないことだと思っている。</p>
委員	<p>水環境の保全・回復に野生生物の生息は、必須だと考える。市民レベルでは調査を積み重ねているところもある。今後、水辺のサポーターなど、さまざまな団体との連携をとりながら、全てを市がやるのではなくても、市民の色々な取り組みを把握していくべき。</p>

会長	今の各委員からの視点は大変重要であると思うので、ぜひ反映してほしい。国際会議でも住民の参加型調査と人材育成が環境問題の非常に重要な、最大かつ唯一の方策という話が出てきている。多世代共生型でどう取り組んでいくのか。高齢者のみでなく小学生のみではなく 20 代～50 代の若手がどうかかわるかが重要。すぐに指標化するのは難しいだろうが、何らかの形で反映してもらいたい。
事務局	資料 3 - 3 環境基本計画 改訂素案【中柱～】 資料 3 - 3 に基づき説明（大柱 4 から 6 部分まで）
会長	全体的に文言については分かりやすくしてください。例えば達成手段が分かりづらいという関連性を示す参照、資料 3 - 5 の p. 6 の 14 について、実施できる方策を検討してもらいたい。特に文言について注意深く進めていただきたい。
委員	所沢に住んで 20 年。p. 4 の 7 にあるが、2 週に 1 度は悪臭に腹が立っている。これを不愉快と思う人が多くいるはず。腐敗臭の原因は何かということをも市で把握しているのか。
大澤参事	三ヶ島地区から寄せられる苦情通報については、主な発生源は入間市側の畜産業者。地元自治会等からも要望があがっている。入間市に要望したり連携してやっている。入間市では、月 1 回以上立ち入り検査をしている。3 月の検査では施設的な面で改善していると確認した。
委員	畜産については糞尿処理をしっかりと行うということが法的に定められている。しっかりとした対策をした施設を持ってやっているのか。入間市内の施設であるなら、入間市にしっかりと要請してほしい。個別案件について別途対応というのが、入間市との連携などということが含まれているということでもいいのか。
大澤参事	別途対応というのは、悪臭は発生源がわからないと指導もできないため、苦情があればそれに個別に対応するという意味合いです。
委員	悪臭に対する通報をしたことはない。周りの住民もあきらめている。どこが窓口かということをはっきりしてもらいたい。

委員	<p>委員と同じ地区に住んでいるが狭山ヶ丘駅を降りた瞬間に悪臭を感じる。個人的にも市に問い合わせをし、近隣自治体へ要望などを行っているという話は聞いているが、実際、自治体間でどういうやり取りがなされているのかを知りたい。</p> <p>あまりことを荒立たせずにということで進んでいるのであれば、そのとおり行って欲しい。どのように進行しているのか実態を知りたい。</p>
大澤参事	<p>地区の人は長いことお困りだと聞いている。その間に入間市から勧告書なども出しており、改善を図っている。最近では悪臭防止法に基づいて計測した結果、基準以下だった。今年3月までの約束で、野積みにしていた畜産の糞を撤去することについても、3月末に終わったと報告を受けている。入間市側の臭いとわかれば、入間市に要望して対応を求めており、今後もこれを継続していく。</p>
委員	<p>改善が進行しているのは分かった。その業者だけから出ているのかを断定しているのか。</p>
大澤参事	<p>臭いの性質上、断定はできない。通報の内容から想定して調べる。そこから想定されれば、入間市に連絡したりしている。</p>
委員	<p>所沢の市域で問題箇所はないのか。</p>
大澤参事	<p>問題箇所ということではないが、市内にも臭気発生箇所はある。通報では、はっきり、どこからの臭気だという話はあまりない。</p>
委員	<p>糞を野積みにしていること自体が問題。畜産業者のみではなく家畜糞尿をそのまま撒いている農業者もいる。農畜産業者という表記にしていきたい。</p>
会長	<p>事務局で表現を検討してください。</p>
委員	<p>先程の水素について発言を。水素については分散型の話が出て今年度は水素のロードマップと国の取り組みも始まっている。項目の中に水素を入れてもらえればと思う。</p>
委員	<p>災害が起きると言われているが、防災拠点としての樹林地の価値等の記述はどこかにあるか。なければどこかに記述してほしい。そ</p>

	<p>のためにある程度手入れが必要であるということも加筆いただきたい。災害対策の部分に追記することがふさわしいか。</p>
大館課長	<p>みどりの持つ機能ということで検討させていただく。</p>
事務局	<p>(2)温暖化実行計画の素々案について &lt;訂正&gt; p 15 前計画の期間× 削除 短期目標の期間 26 × 27 10、11 民生業務部門のグラフ逆</p>
会長	<p>資料に数値等が入っていない箇所があるため、本日は資料説明のみにとどめ、後ほど送付させていただき意見をいただくという方式にする。</p>
事務局	<p>(3)その他 数値を記載したものを15日(水)までに送付する。改めて意見をいただきたい。24日(金)を締め切りとする。今後のスケジュールは、次回の第4回審議会は日程を11月17日(月)14時からを予定する。</p>
会長	<p>それでは、まだ発言いただいていない委員の方に発言いただきたい。</p>
委員	<p>総合計画との関係があるが、作る時期のサイクルが合わなくて、ズレがあると思う。この場合、見直された内容というのは、総合計画とズレても、それにしぼられて、必ずしも動かしてはいけないというものではないと思う。遠慮しがちな印象がある。直せるところはどんどんお願いしたい。</p>
委員	<p>大柱4の環境リスク対策で、放射線の対処が明確に位置づけられたイメージある。 位置づけられたから p 42 の施策の内容の表記に対する意見もあり、ちゃんとやっていくというお答えがあった。もしかするともう少し書いてもらって、市民の方の放射能に対する不安を取り除くよう、情報提供するなど表記してもらおうと、もう少し安心できるの</p>



副会長	<p>かなと思う。</p> <p>各委員からもあったが、環境教育では、マンパワーは子どもから が大事。今の現状が子どもにとって、30年後40年後のふるさと。 大柱がそれぞれあるが、各セクションの基本計画でいろいろ形とし て発信されていく。学校教育を通じた環境教育、社会教育などを 通じて啓発発信など、思いのこもった目標、数値だと思う。時代を 先取りしているというものだと感じる。そのため表現は平易にする 一方、考えのある言葉をお願いしたい。</p> <p>閉会</p>
-----	--